京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜錄

漢城より（十日）

北韓山生

▲醫は仁術と申すとかや、何れは時よ時節につれて仁術の加減も異なるべきものならんも、現に角に仁術と申すに就ては古來異議無きところ、吾等とても異存無し、但し醫者自身は或は迷惑かも知れず、頼みもせぬに仁術呼はりされのみならば腹も立たねど、心にも無き仁術を強いらるゝ弱味は無しと云はん計りの振舞は吾等京城に於て日常見聞して一應は苦々しくも思ふものから、又翻つて考ふれば單に醫術を修め衣食の爲めに其業に携はるのみなる彼等をば仁術攻めにするは聊か憫然の感無き能はざる也。

▲去りながら、叙上は吾等が彼等に對する同情とよりは寧彼等を見下げたる申條なることは云ふ迄も無し、譬へば理髮業者と同樣にも見做しての言なり如何となれば。

▲彼等の患者に對する投藥は理髮師が剃刀を使用するが如く、前者が毒劇藥を服用せしむるは、理髮師が鋭利なる剃刀を客の頭部に閃かすが如く、若し誤診の結果患者を苦しむることあるも事實上何等の責を負はざるは、理髮師が誤て客の面部を傷くるも單に口頭の謝罪にて事足ると相似たらずや、故に吾等は二者相偉ふものとせり、然れども是の如き比較は彼等に取りて甚だ不面目なるべく、吾等も亦不本意千萬也眞に吾等は彼等を見下げ度くは無きの也、其の之れを爲さしむるは其の責實に彼等に在る也。

▲何聞く處に依れば彼等の或者は少許の阿賭物の爲めに傳染病患者を隱匿するがありといふに非らずや、如何に衣食の爲めなればとて、仁術と銘打たれたる醫を業とする者の所爲ぞと信ずるを得べきか、吾等は人の世を呪咀する惡魔の業も之れに如かずと思ふ也、勿論京城に於ては斯る不良の輩は甚だ多からざるべし、又或は眞に醫家の天職と解するもあるべきが、大体に於て理髮師的醫者の甚だ多きを遺憾とす。

▲彼等に取りては甚だ迷惑なるかも知らねど、彼等が苟も醫を業とする以上衣食の爲めにのみ其業を營むてふ理髮師的醫者たるを耻辱とし、其の術に精に其の心仁に、而して其の自ら輕んじて他の輕侮を招く無からんことを吾等は切望に堪へず候。

雜報

暴徒出沒の情況

△咸鏡南道　永興郡雲谷面地方を中心として行動しつゝある吾が守備隊の捜索隊は本年三月下旬より平安南道陽德郡德谷山并に元山管區内を横行兇暴を逞ふせる稍著名の賊魁金致福及其部下一名を逮捕せりと

△平安南道　高原分遣隊より派遣の捜索隊は七日吳江面新豐里にて賊の小魁吳濟泰の率ゆる二十餘名と衝突し多數の鹵獲品あり彼等は祭隱査の部下に屬し祭は谷山附近に蟠踞し居るが如し更に同道管内に於ける賊徒は去月末より盛んに盲動し二十三日は鶴泉面上召里に十五の賊徒襲來里長より五百圓の證票を徵し退去の途中陽德郡吳江面にて村民二名を殺害せり又二十五日は加下里の民家を襲ひ四十圓を強奪して良民三名を傷け次て又同日十三名の賊徒侵入金十圓を強奪し別に百九十圓の出金證を徵し去れり二十六日は古下里に來襲し七十圓及數反の綿絹布を強奪良民に重傷を負はせ更に又同日鶴泉面東倉に來襲民家十三戸を燒拂ひ後同面五峯里に到りて里長を脅迫し二十五圓を掠奪し良民二名を拉去し陽德郡金城に到る途中に於て銃殺したり

△江原道　八月三日北倉分遣隊を距る約一里半の地に於て同隊の捜索隊は賊三十と衝突し交戰約三十分の後擊退せり彼等は數多の兇器を遺棄し金剛山方面に遁逃せりと

●降雨と滿洲の作況

今年滿洲の作況如何と云へば從來の經過に徴し總括的には良好と云ひ得べきも更に南北に分ちて之れを云へば北滿にありては阿什河一面坡等の哈爾賓附近迄は雨多きに過ぎたりと云ふも其より奥地は到處上々の作況にて就中小麥は最も佳良とのことなるが南滿にありては奉天新民屯の一線を中心として以北は風雨適順今日にては八分作以上の見込確實なるも其以南は間々旱魃に苦む處これなきにあらず中にも海城の如きは植附前の雨量不充分なりし爲め發芽し得ずこれを再びせし時は時季既に遲れて今日にては成育の見込なく收獲失望と云ふ有樣なり又た東部滿洲にありては鳳凰城析木城等の方面旱魃の爲め收獲の見込不良と稱せられ西部にありても新民屯以南は面白からず要するに中央より東部にかけて奉天以南は作況甚だ佳良なりと云ひ得ざるが如し即ち甘霖之れなき結果なりと云ふ

●長崎縣の移住漁業

長崎縣南松浦郡の縣會議員鳥巣五右衛門氏は過日來統營を根據地として改良沖取網の調査を爲し大々的漁業に從事する爲來月下旬五十餘名の漁夫を率ひ同地に移住する事に決せし由右の網は鯛、鰮、其他雜魚漁に使用するものにして引續き大敷網の經營をも爲す豫定なりと尙は土地は同縣遠洋漁業團に於て朝鮮水產組合より借受け倉庫及び漁夫合宿所を建築し是等出漁者の便宜を計る筈なりと云ふ

●佐賀縣の韓海移住

本年六月現在の韓海各漁業根據地に於ける同縣移住者の戸數人員は左の如し

群山一七戸六四人、木浦五戸一九人、南海島一一戸二六人、迎日灣二戸六人

尙は平安北道に於ける同縣人鍋島喜八郞、高取伊好、伊東祐侃、西英太郞等諸氏の漁業經營は着々進捗しつゝありて今回九戸移住したりと

講談

大岡政談　越後傳吉　第四十六回

旭堂南陵講



庄「オイ〳〵祈禱師の源妙さん　一同「段々此方の方へ廻つて來たぞ、今度は源妙さんだ　源「ハイ　庄「汝前が人を集めて御幣なんど振廻し御祈禱をするのは宜いけれど、外に可訝な評判が立つてるぜ、オイ狐々さんなんぞを使つちやア不可よ、疾からチャンと眼が注てるがマア〳〵と見遁してあるのだ　源「誠にどうも恐れ入ります片ッ端から小言をいつてふん反かへり庄藏は半面の靑髭を撫でゝ居りますその中にドンドン酒肴を運んで飲始めました、傳吉は密と裏へ出て見ると裏へ揃つた皆百姓の若い衆、畑の上へ莚を敷いて桶だらうが擂桶だらうが構はず食物を一杯盛上げ、酒は一升德利で燗をして持つて廻る　甲「此方へ持つて來んかい　乙「オイそれを此方へ持て來い、ワイ〳〵騷いで居る酒だつて盃などに注いで飲むのぢやアございません五郎八茶碗や何かで飲むんです、江戸土產の筋文身を各自々慢さうに出し、手拭で向ふ鉢卷を締め頭から日にカン〳〵照されながら飲でゐる　傳「アヽ皆さん、宜しく召飲りまして　甲「イヤコレ入來たぞ、汝へまだ飲んでるのか、小旦那入來つたぞ、汝へマア何だ、もつと犢鼻褌をシッカリ締めねへかこれ〳〵靜かにしねへか、胡座搔いて何ちう狀だい　乙「エラさうなことをいふない　甲「エラさうにいふでねへだ、小旦那が入來たちやアねへか小旦那が……　傳「イヤ皆さんさう御叮嚀にしていたゞいては困ります前へ出ましたのは若い者頭、誰れが何といつても背面の筋文身が承知しねへといふ新田の虎ン兵衞　虎「イヤ小旦那、總名代に私が禮を申しやすだイヤ芽出てへこんでがすだへイ、お前樣ばつかりだ金を三百兩も儲けて戾つて御座るのはエライもんでがすな小旦那の爪の垢でも煎じ詰めて藥にしろといつてますだい　傳「ハイ皆さん、誠に粗末なものを召上つて下さいまして有難う存じます、實は氣に觸へないで飲んで下されだが私は芽出てへやうな今日は酒宴して居るのぢやアございません　虎「ハーン乃公へ又芽出てへこんだと思つて遠慮なしに御馳走を饗應れて居つたい、分らねへことをいはつしやるな、何で芽出たくねへンでがす、オイ〳〵何をするだい、德利の口飲をしやアがつて、芽出たくねへんだと、分るまで待てよ、小旦那何う芽出たくねへでがす　傳「實は江戸へ參りまして三百兩の金を儲けましたことは儲けましたが、その金があつたなら芽出たいが無くなつてしまひましたので　虎「へーイ三百兩無くなつた……この野郎飲むところの騷ぎでねへだ、小旦那が金儲けて御座つたその金が無くなつたといふんだ、愚圖々々して居られねへだ、何うしやした小旦那　傳「實はこれ話しをしますが、と傳吉が我家へ戾つてから、中村屋の方へ預けた二百兩の證文と櫛の一條、佛壇の抽斗へ入れた奴が朝方奪られ、中村屋の方へ傳吉の從兄弟の彌藤次と名を僞はつて金を取に行たものゝある事までズーッと話しますと村の若い奴等は互ひに顏と顏を見合せました　虎「ハヽアねらい目に遭ふて御座るだそれが芽出てへといつて酒飲んでるどころの騷ぎでねへ飛んでもねへ奴があるもんだ、で小旦那何かへ、その泥棒は分らねへか　傳「ハイ、中村屋與兵衞さんが分つてると申しますので　虎「分つてる、分つてりやアあんだつて愚圖々々して居ますだい、小旦那、乃公等ア皆寄つて取ッ捕へますだ何の奴でございます　傳「中村屋さんの仰やるのにはこの寶田村の者だといはれました　虎「イヤ寶田村の者だ、てりやアエライ事になつたのう、コレ笑ひ事でねへだ　甲「笑はねへだ　虎「我取つたか　甲「馬鹿吐けこの野郎　虎「小旦那嫌な事をいつてくんなさるな、寶田村の者といやアこの中に一人あるか二人あるに違へねへ泥棒する奴は誰でがす、誰が取つたでがす　傳「うりやア分らねへ　虎「人相ちうやつが分つてるだらう　傳「分つて居ります與兵衞にいはれた人相をズッと傳吉が述べましたこいつを聽くと仰山の奴が思はず顏と顏とを見合せた　甲「汝分つたか　乙「分つた　一同「分つた〳〵　傳「俺ア何う考へて見てもうの人相は庄藏さんとしか思ません

東京市大出水

（東京電報）昨夜半來猛雨の爲めに隅田川荒川六郷川等の川筋氾濫し府下南葛飾郡一帶の平野は大湖水の如く濁浪滔々東京市内に於ても深川本所の兩區は殆んど過半を浸し本所區向島須崎町より柳島町南北二葉町中の郷より割下水附近に掛け深川區にては木場の十七ケ町より竪川河岸安宅町等何れも床上二尺餘淺草區内に於ける千束町象潟町玉姫町吉野町より淺草公園附近に掛け床上一二尺に及べり東京市内麹町麻布赤坂本郷を除ける各區は夫々多少の浸水家屋を見ざるはなく被害民は老幼を背負ひて逃げ迷ひ警察官及消防隊及び軍隊の舉て大活動せる光景は宛然戰場の如き大混雜を來せり被害高は目下調査中なるが約浸水町數三百戸數二萬以上の見込死傷數十名を出せり京濱間は列車電報共不通なり(十一日)

大水害の詳報

十一日夜着電大水害詳報左の如し

▲五十年來の強雨　連日の大暴風雨は今十一日漸やく晴れたるも山北以西豐橋まで鐵道用電信電話は皆不通靜岡縣下被害最も多く安政七年以來の大强雨なり

▲開通六日を要す　鐵道の復舊は今後六日を要すべしと云ふも實際は見込立たず臨機の策として横濱熱田間汽船連絡の計劃中なり

▲四十名行衛不明　藤枝町にては浸水の爲め行衛不明者四十餘名あり線路上の浸水三尺に達し一面海の如く今や全く救助の途絶え被害の狀實に慘憺たり

▲旅客列車に起臥　新橋及神戸發各列車の旅客の多くは不通區間にて列車内に起臥し鐵道院の焚出を受け居れり

▲石部隧道の崩壞　燒津用宗間不通となりたるは石部大隧道崩壞の爲めにして同驛間開通に至るまでは數日を要すべき見込なり殊に人夫不足を告げ修繕に就ては甚だ困難を感じ居れり

▲水上船を使用す　濱松町には前日來降雨の爲め河川溢れ一面海の如き觀を呈し床下は勿論床上まで浸水したる爲め炊爨を爲す能はず焚出及び炊爨用器具運搬には小船三艘を使用し板屋、裏竹、早馬の三個所に配置警備しつゝあり浸水家屋全町二分の五に達し慘憺たる光景なり(以上十一日夜着)

至尊の御下問

畏き邊に於かせられては當局者を召し本年の氣候及び作柄に就て種々御下問あらせらる(十二日)

新領土の研究

文部省に於ては新領土教育方針研究の爲め幣原博士を比律賓、印度、南米等に派遣する事に決定したり(同上)

曾禰子爵危篤

曾禰子爵危篤なりとの報あり(同上)

紐育市長狙撃

（紐育電報）紐育市長グーノル氏は暑中休暇を利用して歐洲に旅行すべく汽船カイゼルウイルヘルムに乘じ將に出航せんとする時狙撃せられ生命危篤なり兇行者は曩きに紐育船渠より解雇せられたるものにしてグーノル氏は此時同船せる南米チリー國大統領夫妻と談話中狙撃され秘書官の腕に凭れ懸り大統領夫妻は氏を病院に送るまで介抱せり(十一日)

韓銀支店設置

（大阪電報）韓國銀行は大阪に支店を設置する計畫あり支店長たるべき高瀨久米吉氏は主として其の準備中なるが場所は高麗橋に決定し市原總裁歸韓の途開店披露をなす由貸付其他一般銀行の事業は財界の恢復を待て開始す可(十二日)

統監の事務諮問

（雜報）寺内統監は十二日午後四時より學部の高等官以上を統監邸に招き又十三日は度支部の高等官以上を統監邸に招きて執務上の諮問をなす

韓人の納税觀念

韓人の納税觀念は尚ほ甚だ幼稚にして是れ軈がて制度と實際との撞着を釀し治安保持の上に大障害を惹起する所以なるが如し然らば其觀念如何かといふに納税は國民の義務に非ずして政府より誅求さるゝものなりとは彼等韓民の一般に思込める所なり曰く吾等は既に地税を納付し居るに政府は更に煙草税を課す是れ乃ち土地の使用權に課税せる上に其土地より得る生産物に誅求を加ふるものにして謂はゞ二重の苛税なりと唱へ新税を課せらるれば直ちに誅求の如く心得居るなり然れども彼等は古來の慣行上税官の徵發は必ずしも意とせず唯だ普遍的制度を設け一般に課税せらるゝを厭ひ其結果富者に對すると貧者に對すると同一率なるは惡税なりと觀念し居れるに過ぎず而して其觀念は如何にも新政を不公平のもの〻如く思惟せしめ遂に三税の彼が如く不成績を示めせるものなり現に彼等は三税反抗の一大理由として政府は既に土地に課税し更に其生産物に課税す將來米大豆の類にまで誅求を加へ來るや明かなりとて孰れも戰々兢々を極め居れり所謂租税誅求の觀念は韓民一般の頭腦を支配し居る事實を見れば普遍的税制の寄未だ韓國の實狀に相伴はざるや以て知る可きなり隨て彼等は特定的徴發に對しては富者當然の義務として毫も怪まざるが如しと某氏は語れり

龍山側の意氣込み

京城民團議員の改選は十月八日なれば[illegible]する者あり而して龍山側の現議員は助役問題以來京城側を怨むこと甚しく茲る選擧には龍山を根據として戰ふことは勿論なるも京城に於ても同一味の候[illegible]制するに於ては一擧して舊日の虐待に報ひんとの氣勢を示し三四日前より松木、大村等の諸氏は京城に於ける有志を訪問して謀議しつゝありと云ふ

在韓邦人教育趨勢

本年四月末現在在韓日本人教育概況は小學校は三十九年度に於ては僅々三十五數なりしを本年四月末現在にては百〇七に激增し就學兒童一萬四千六百十七人を計上するに至れり中學校は四十二年末の創立に係り同現在二百廿五人の生徒を收容せり高等女學校は三十九年に於て二校の創設を見現在生徒數は五百八十五人なり商業學校は釜山及仁川に各一校を有し同學生數は合して二百三人を有せり他各種學校としては韓語講習會、善隣學校商業傳修科、女子技藝學校、釜山實業學校、元山教育會補習學校の六校にして何れも本年の設立なり專門學校としては京城に善隣商業學校あり職員二十學生十八人幼稚園は三十九年三なりしも今や六を加へ兒童五百九十五人を算せり以上各校の經常費は都合三十三萬二千八百二圓補助十六萬圓にして各生徒一人割當は小學校は十圓五十錢中學校百〇七圓高等女學校八十二圓四十錢商業學校百十一圓十錢善隣商業三百廿九圓七十錢幼稚園十六圓八十錢各種部に屬する六校は未詳なるが三十九年末に於て各種學校を通し僅かに四十一校生徒數未だ五千八百三人を出ざりしに僅々四年後の今日は百廿九校生徒一萬六千五百四十二人の盛況を見るに至れりと

群山地方教育狀態

同地に於ける日本人の教育事業は居留民團立尋常高等小學校の外全州、公州、江景、論山、馬九坪、寛岩里、鴻山、大場村、南原、錦山、古阜の十一小學校あり前者は群山居留民團之を經營し後者は日本人會又は學校組合之を設立し何れも國庫より相當の補助を受け目下生徒總數八百二十二名にして教員二十四名あり而して中學教育機關に至つては未だ之が設立を見るに至らずと雖も當地方の發展と共に益々育英薫陶の必要を感ずるを以て早晩中學校、女學校、實業學校等の建設を見るに至らん尚韓人教育の機關としては全州農林學校、群山實業學校、全州、公州、江景、古阜、南原に公立普通學校あり其他各郡に少なくとも三四の私立學校ありて韓兒に新智識を注入しつゝあり此の外群山居留民團の經營に係る幼稚園あり青年の英語夜學會あり韓人の日英語學校あり又教育的娛樂機關としては青年体育會、佛教青年會、讀書倶樂部等の設備あり

在釜山韓國興業會社現況

在釜山韓國興業會社の現況を聞くに現在倉庫入の貨物は總數三萬六千餘個にして之を昨年の今頃と比較するに六千余個の減少を生ずるが是は昨年は韓貨[illegible]は殆んど差なく本年の現在高は二萬七千個にして内玄米は一萬三千個なり本年四月より先月まで入庫せし貨物數は五萬六千四百六十六個にして三月の幾入[illegible]六個となるべしと

英南極探險員出發

英國南極探險隊員シーエッチメーアー、ダブリユープレースの兩氏は[illegible]日午後元山へ入港し直ちに立神丸に乘換へ長崎を經て神戸へ向け出發せりと

浮塵子驅除の講究

既報の如く馬山地方にては浮塵子發生したるに付當局者は頻りに之れが驅除方法に就て講究中の由なるが聞く處に依れば同害虫は石油を撒布するに於ては直ちに壓滅すべき筈なれば該蟲發生は敢て憂ふるに足らず

寺内統監令息入京

寺内統監の令息陸軍歩兵大尉寺内壽一氏は夫人同道十二日午後八時十分南大門着列車にて入京せり

佛國軍艦仁川入港

佛國軍艦アルジャー號は昨十二日午前八時鎭南浦より仁川に入港投錨せり

朝鮮新聞紙の解停

去る十日發行停止を命ぜられたる朝鮮新聞は十三日解停せられたり

●蟻生十郎氏歡迎　今回當地に於て辯護士を開業する元大韓日報社長蟻生十郎氏の爲め留友諸氏は十日氏を京城ホテルに招待して晩餐會を開きたり

●安住書記官歸任　司法廳書記官安住時太郎氏は海州地方へ司法及監獄事務視察の爲出張中の處二三日歸任の筈

●有賀書記官歸任　南韓方面出張中の司税局書記官有賀光豐氏は十日歸任

●民團醫臨時囑托　京城民團にては青坡病院囑托員として神吉醫師を招聘

露領事の商業調査

數日前露國總領事は書記生ワスケヰチ氏をして京城商業會議所を訪ひ日本人商業の狀況及び貨物扱等に就き細密調査せしめたり要は浦鹽韓國間の通商狀況にありしが如く又同時同書記生の談によれば韓國より浦鹽に輸出さるゝ年額は七十万圓に上り内二十五萬圓は北韓に屬し牛鷄卵等其主なるものなるが殘分は釜山港經由南韓方面の米穀其他諸種雜貨等なりと云ふ

青年會の學生招待

十三日午後八時より大和町京城基督教青年會に於て開催學生招待會に於ては會長渡邊暢君の歡迎の辭幹事丹羽淸次郎君の演說あり又引續き會員相互懇談の後餘興として琵琶、バイヲリン、講談あり其間に茶菓、アイスクリームを饗する由内地より當地に歸省せる學生は會員の紹介を經て何人にても出席し得と云ふ

同志社の基金募集

京都同志社大學の教頭水崎氏は同大學基金募集の爲先日入城滯在中なりしが當地に於ける募集高は金二万圓に達し中にも同大學と緣故深き市原韓銀總裁は金五千圓を寄附したりと云ふ尚水崎教頭は基金募集の爲昨日當地を發し平壤を經て滿洲各地及北京へ赴かるる由

米國博愛家の來韓

米國費府の豪富にして有名なる博愛家チョン、ワナメカアー氏は曾て當地韓人基督敎青年會の會館建設費中へ多大の寄附金をなしたることあるが氏は近々東洋漫遊の途に上り當地へも來らるべしと或方へ通信ありたりと云ふ

私立法政學堂設立

京城崇洞鳳鳴學校内に法政學堂なるもの設立せられたり教授科目は法律科及び韓語科の二科にして講師は法學士十六名夫々擔當し殊に有職者の爲め夜間教授をなす由なるが京城に此種の學校設立は稀なる事なれば日韓學生の入學者多かるべく尚同學堂に於ては近々商科並普通科をも設くる筈にて目下計劃中

總監部投書函設置

警務總監部は本部及第二憲兵分隊並に南北兩警察署前に伸寃函を設置せり寃訴又は密告好きの韓人は自由に投書し得ると而して其結果從來普通警察のみにては隔靴搔痒の感ありし偵察に多大の便宜を得らるべしと云ふ

外人の視たる半島(七)

一外人記述

KOREAN PENINSULA AS VIEWED BY A FOREIGNER.

▲余とミストル、イシツカとの談話は平凡ではあつたがサブスタンスは多かつた、君が與へて呉れた諸種のインフオメエションは余にとつては之からの好參考だ、辭するに臨み君はレフオーム、アンドプログレッス、インコリアと名の付いた英文年報一冊を呉れた、ソツして親切にも余の爲に秘苑見物の手續をやつて呉れた。

▲余が石塚君の事務室に在る間に五六人の新聞記者らしい人達が見えた、主人と訪問者とは余程インチメートな間柄と見ねて其話振りが頗るデモクラチックであつた、余は石塚君の對新聞記者態度を日本官吏のレコード破りと思つた。

▲石塚君のポートフオリオに山なす書類が積まれてあつた、ソコへ五分間毎位に新なる書類をボーイが運んで來た、ポートフオリオはモー一パイだ、一体イツになつたら此書類が捌けるのか。

▲レッドテエプイズム、最早統監府に根を据へたものと見ねる、行政整理も冗員淘汰も此根を燒かねば出來ぬ、否な出來たところで忽ちあと戻りをする。

▲統監府を辭しての後余はリキショマンに案内されてダイチングーへ詣つた、此處の太神宮は伊勢のプランチでもなく日比谷のイミテーションでもない、其セイかして日本の國祖を祀つたテンプルにしては餘りにヒドイ、外人たる余が考へてもモット壯嚴にしたいものだ。

▲同じ南山に在つても本願寺の佛堂は太神宮に比すると立派なものだ、韓皇の勅額が懸つてある、堂の奥の方にアミダブツの偶像が飾つてある、左の方には**寄附金番附**が大きな字で書いて飾つてある、ソコで營利に敏きボンズ達が普通と特等との永代經の踊み分をして居る、此光景を見たなら如何に佛教ビイキの詩人アルノルドでも慥かに嘔吐を催すであらう。

▲本願寺を出て來ると南山倶樂部と云ふのがある、家屋は極めて謙遜で設備は最もプーアで迚も上流人士の集合所とは思へぬ、此倶樂部を以て彼のカゲツ、キクスイ等のパブリック、ハウスに比するときは丁度太神宮と本願寺程の違ひがある。

▲余のリキショーは宿所を指して走つた、途中で計らずも厭べき**一場の悲劇**を見た。

全北管内の近況

最近内部に達したる全羅北道管内の各府に於ける報告左の如し

▲沃溝府　(一)日韓人の融和を計り併せて韓人をして日本の實況を知悉せしむる爲め本年日本を觀光せる金光濟外三名を請じ管内の重なる者を招きて演說會を開きたるが頗る好結果を得たり(二)米作は秧挿の時期降雨寡少なりしが故に農民の配慮一方ならざりしも其後數回の豪雨ありたる爲め全部の植付を完ふするに至り地方民は一時に愁眉を開けり(三)甘藷栽培組合設置の件に就ては數回協議を重ねつゝありしが去る五月十日前後は甘藷播種施行の時期なりしが爲め職員及び日本人にて之が經驗ある者を派し播種せしめたるが其成績好良なるに於ては更に地方民をして栽培せしめ人民一般の常食たらしめば民利を增進すること蓋し鮮少ならざるべし(四)蠶業奬勵に就ては全州種苗場より九枚の蠶種を取寄せ之を各志望者に分配して飼育せしめつゝあるが管内には桑樹實に稀少なるに付勢ひ蠶業を奬勵せんと欲せば桑園栽培の急務を人民に知悉せしめざる可らずとの趣旨にて全州種苗場より桑苗木三千五百本を求め府郡内又は普通學校内の空地に植付け更に希望者に付與して栽培せしめつゝあり

▲錦山郡　日韓人の間は益々親善を加ふる一方にして何等疏隔す可き傾向なきは深く悦ぶ可き現象なり過日同郡主事として赴任せる日本官吏に對する地方民の感情は善良にして彼等人民は日人官吏を得たるを祝するとて日本人の重なる者と共同して盛大なる歡迎會を開けりと以て其の全班を窺ふに足る可し

▲茂朱郡　(一)同郡に於ける社還米は四月中悉く回收せしが以前の社首にて信用ある者には保管證を徴して引續き保管せしむることゝし他は總て面長に保管せしめつゝあり(二)當地に於ける地主は隨時に小作人を變更する風習ありしが當局者は地主に對し小作人にして地主を害するか又は重大なる故障あらざる限りは斯の如く隨意に變更するの不可なるを諭告せるに地主等は孰れも之に從ひ漸次右の風習減退せり

全羅道商況と金融

全羅兩道に於ける市況は五月中旬以後米穀價格騰貴の爲め各地より廻米四月以前に比して多きを見たると同時に其の輸出に於ては日本の外鎭南浦大連地方よりの注文續々ありて貿易商況に活氣を帶び又た五月よりは群山港を中心とする沿岸漁期に入り日本よりの入漁者多數にして爲めに漁市場亦た活氣を添へ其他輸入及輸出雜貨の賣行き盛んにして一般市況は五月以來稍好景を呈せり而して金融は尚ほ夏季の群山は金融緩漫にして金利亦五月以降大なる變動を見ずと

商業會議所と龍山

京城商業會議所は今回民團合併の結果其地域を變更する事となり近々定款改正を爲すべし而して改正の上は現議員數二十四名を三十二名とし龍山より八名を撰出する筈なりと云ふ

公人私人

▲樋口正美(安東縣採木公司理事長)十一日平壤より入京京城ホテルに投宿

▲永山止米郎(安東縣採木公司參事)十一日入京京城ホテルに投宿

▲武田秀雄(平壤鑛業所長海軍少將)十一日平壤釜山行

▲齋藤勇三(主計大監)十一日釜山行

▲平澤道次(東京瓦斯會社重役)十一日釜山行

▲龍山雜信▼

▲豫報の如く龍山警察署に於ては一昨十一日衛生組長を小學校元町分敎場に召集し古屋警部釜水民團出張所主任より衛生に關する注意を與へたるが其席上組長より組合組織に關する意見を申出でたり右は前日の紙上にも報道せし如く爾來龍山の衛生組合なるものは客年虎疫流行の際急に民團に於て組長を囑托し組長は其依賴に依りて民團より割り當てられたる區域内の居住を督勵し防疫衛生の事に奔走したるに過ぎず去れば組長は有れども組合員は一人も之れ無しといふ有樣なるよりイザ流行病猖獗を極むといふが如き場合には各個自衛の念より差したる故障も無かりしも平常に在りては組長の言ふことなどに耳を傾くるものも無しといふ因て此際組合を組織するに非らざれば組長を置くの必要無しといふに在り去れば警察及民團に於て組長の意見を理由ありと爲し急に組合を組織することに決したりと而して新市街に於ては昨十二日夜直ちに民團派出所に有志者を集め組合組織に關する協議を遂げたりと

▲龍山相撲は先頃修繕に着手せしが茲一週間以内には落成の見込なりと彼處も捨つるには惜しき市の一區廓なり好き思付きなり賞めて置く

▲京城手形交換高▼

八月	金高	枚數
十二日	八六、五四〇、八四	五七五

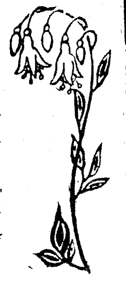
▲治外法權▼

警務總監部長の明石少將は先立つて韓人の元老大臣及び知名の政客等を其官邸に招んで納涼會を催した、記者は時節柄此會の有効なるべきを信じた▲果せるかな昨今聞くところに因れば、該納涼會へ出席した先生達は、心の底まで涼しくなつて此頃の炎署も平氣で堪得るヨーになつたソウだ▲東海道水害の爲に滊車は不通となつて東京からの信書や新聞やが今日は不着だ、鐵道院が臨時連絡の爲め會下山丸を熱田へ廻航したのは臨機の措置として當を得たものだ、コー云ふ時にコソ彼の光濟號を利用してはドウか▲平壤に於ける水量對汲水夫の問題もまづまづ無事に片附いて結構な事だ、問題は小さい樣だがコンナ事からエテシテ韓民の怨を買ふものだ、當局が恩威兩方の手段を以て此問題に臨んだのは其用意賞するに足りだ▲獨逸のカイザル陛下が社會黨退治の目的を以て機關新聞を作らるゝソウだペンの力が劍の力に優ることを早く證據立てて貰ひたいものだ▲日露の兩軍艦乘組員が英國で落合ふてポーツマウス市長の晩餐會へ一ショに招待を受けた、變れば變るものかな▲米國官界に於ける六百萬圓收賄事件の火の手は益熾んの樣だ、圖が大きいとて收賄の大きいのは自慢にならぬ▲釜山理事廳の役人達は同地韓國瓦斯電氣會社の株式を大分申込んだソウだ、監督官廳の役人達が被監督會社の株主となるのはチトオカシイようだ。

●龍山側の意氣込み 京城民團議員の改選は十月八日なれば[illegible]する者あり而して龍山側の現議員は助役[illegible]城側を[illegible]る選擧には龍山を根據として戰ふことは勿論なるも京城に於ても同一味の候[illegible]木、大村等の諸氏は京城に於ける有志を訪問して謀議しつゝありと云ふ

●釜山韓國倉庫現況 在釜山韓國興業會社の現況を聞くに現在倉庫入の貨物は總數三萬六千餘個にして之を昨年の今頃と比較するに六千餘個の減少を生ずるが是は昨年は韓貨[illegible]萬六千四百六十六個にして三月の[illegible]四月より先月まで入庫せし貨物數は五千個に[illegible]本年の現在高は一二萬七六個となるべしと

●英南極探險員出發 英國南極探險隊員シーエッチメーア、ダブリユーブレースの兩氏は[illegible]山へ入港し直ちに立神丸に乘換へ長崎を經て神戸へ向け出發せりと



公徳違反學徒

旅行 ▽不愉快なる旅宿の一夜

徐々旅行の好季節に入る、（僕の茲に云ふ旅行は多く遊山と云ふ意味に取りて戴きたい）春でも夏でも冬でも皆夫れ〴〵異つた趣味があつて決して甲乙はない、併し夫れは場所を選定しての上のことで何所へ行つても好いのは秋の如である、水の色山の色、木々の梢には果實が色づき魚獸の肉にも脂肪がのつて來る新米は出る照る日は暑くも吹く風は涼しい疲勞を覺れて旅宿につく冷々とした夜の空氣も重からぬ寝具の心地好く眠ることが出來る旅行をして何が樂みだと云つても旅宿に着いて先づ浴して堂乎と坐つて薦める茶を啜るに上越したものはない而して膳の上で一陶を傾け刺肉の幾片照燒にて飢を充たし柔い蒲團の上に圓かなる夢を結ぶ此の心持は又更に何とも云へぬものである、然るに此の場合時に階上階下若くは隣室に騷客があつて切角の眠を覺される場合がある、而して此の例は甚だ尠くないのは皆様も御實驗があると思ふ、扨て一度目がさめると隣の客の騷ぎが耳に障つて眠られたものでない、斯うなると疲勞回復の旅宿の一夜が何等の効もないことになる、日本人は元來神經過敏の僻に斯る場合甚だしく神經遲鈍で隣りに客が居やうが居まいが夜が更けて居やうが居まいが一向頓着なく大聲で談笑する傾くる酒に醉ふては調子外れに俗歌を唸る甚だしい手合になると藝妓を聘んで三味線太鼓を叩きたてる者もある、旅宿は公園や公會堂と同じ事に一人の爲に建てられたる場所でない多くの人の倶に或る目的を果す爲に設けられたものであるから一定の金を拂つたからといふて「他人」と云ふ事を忘却することを得ると云ふ權利は與へられて居らぬのである

教育ある金ある者に多い

斯くの如き公徳違犯者は却つて少しは教育ある金ある者に多いのは殘念である、此れは彼の公園の花を折つたり神社佛閣に落書するよりも妨害を他人に及ぼすことが廣く且つ大きく深いのであるから一種の罪惡として幼少なる學校生徒の頭に刻み附ける必要がある、と同時に錢湯や共同便所などに於ても相當の注意と遠慮とがある如に教育する如にして欲しいのである、當地には皆無の如であるが己に妓を蓄ふる料理店を兼業するもの〻如きは官憲に於て可成許可しない樣せられたい、更に旅館主の注意を要することは勿論である。

鬼の如な繼母

▽敬すべき特務の同情心

過日來明治町一丁目勸商場に於ける出店者の賣上げ金入りの財布が紛失せし旨届出でに接すること屢々なるより其筋にては嚴しく探偵中なりしが去る十日の事某憲兵特務が見張り居たる午後一時頃年のころ十二三才の小娘が彼方此方と彷徨目付きの甚だ怪しきものあるより監視を怠らざりしに果して某店見張りの隙を覗ひ怪しき行爲をなさんとせしにぞ直樣引つ捉へたるもの〻年端も行かぬ事なれば仔細あるべしと己れが官舍に伴ひ行き劬り賺して深く其の行爲を改むべきを說諭したるに元來より爲せし業のみ善からぬは知れるものから其場に泣き朽折れたるが涙の隙より語るを聞くに彼れは山口縣人本町一丁目住何某（六二）の娘にして本年十二歳にて目下尋常何年級に通學中なるが實父某は五六年前渡韓當時は請負業を營み相當繁昌せしに何故か同女の實母を内地に追い歸し間もなく跡へ引つ張り込みしが即ち現在の繼母まさ（三六）なりしもまさも初めの間は同女を憎むこともなかりしが實子を擧ぐるに至りて性情殆んど一變し物につけ事に當り辛く酷く當り散らすも年若き妻の愛に溺れたる實父は見て見ぬ振りを爲すにぞ他に慰むるものなき彼れは心根自づから僻み行きたり其間實父は或る事の手違ひより非常に損害嵩みて終に今の職に成り下りたるが家計の豊かならざるに伴ひ繼母が殘忍の手は益々強く此の頃にては箸の上げ下しに箸の跟の絶ゆる間とてなきのみか學校用品も碌々買ひ與へざるより僻みたる性根は玆に捻け〳〵て遂に他人の物に手を出すに立ち至りしと聞きたる同特務は娘の言葉のみにては眞僞の程も覺束なしと附近の人の噂を聞きたるに事實相違なしと判明したるより非常に同情を寄せ文房具の彼れ是れを買ひ與へ猶ほ此の後とも入用品ありて繼母に言へぬ場合は遠慮なく申し來れよ大した事にもあらねば必ず調達し遣はすべければ決して忘れても他人の物に手を掛くる等のことあるべからずと諭して自宅に歸さんとしたるに彼れは同特務の袂に縋りて去にともないと歔欷くを慰め賺して歸したるが繼しき母や實父の無情に引き換へて同特務の優しき心掛けに一種云ふ可らざる快感を覺へる因に同女は罪を犯さんとしたるのみにて以前の犯人は他にあるも未だ逮捕に至らざるなりとか

氷が解けて縺れた主從

▽スコップにて主人を撲る

仁川仲町三丁目氷御商山口龜次郎方雇人なる大坂府三島郡味邊村坂本定吉（十三）と云ふは一昨日の朝まだき主命に依り氷の御行商に出で行きしが折柄の暑さの爲め仁川停車場に汗を入れ午後二時頃まで飲酒しつ〻ありたるに何時しか氷は解けて水と化したる況ぞ其顛きは一方ならず去りとて其儘放任すべきにあらねば親方濟みませぬ……と歸宅したるに之れを見たる主人の龜次郎は大に怒り其場に注文客の居合す前も憚らず散々小言を列べたるより衆て酒癖悪しき定吉は二言三言云ひ爭ひし末其場に有りあはせしスコップを取手も遲し大上段に振りあげて發止とばかり龜次郎に毆ち掛りたるが此方の龜次郎は不意を喰ひし事とて右頰部を深さ七仙米深さ骨膜に達する重傷を負ひ尚ほ左掌にも長さ七仙米深さ骨に達する傷を受けて其場に打倒れ血潮に塗れてウン〳〵と呻き出したる此場の騷ぎに家人は直に仁川署に其旨訴出でたり、急報に接せし同署よりは坂下今井兩刑事現場に出張したるに此時には既に加害者は風を喰つて逃走したりとの事なるにぞ嚴しく行衛を搜査したるに同夜午前二時頃桃山の山中に隱れ京町山下氷店にて購ひし燒酎五合を飲み盡して敗島大門前に現はれ出でし處を御用の聲と諸共に取押へて本署に引揚げたり

門司驛内爆發後報

▽當管所有者は元巡査

去る八日午後十一時二十分門司驛發鹿兒島急行列車へ手荷物を積込まんとて荷扱驛夫が貨車に搬入する際突然轟々たる大音響と共に朦々たる火煙の炎上り取扱驛夫は負傷したるにぞ驛員等は魂消て駈寄り見れば手荷物中なる爆發物の破裂なりしとの由は既報せしが此の手荷物は乘客の一人鹿兒島市樋口町岩城正隣（四六）とて韓國大邱にて警官を勤め常に警戒用として雷管を所持せるが今回歸國の際老母が手荷物の中に納めたるを心付かず其儘持歸り六日薩摩丸にて下關に上陸直ちに門司驛に赴きたる者と判明せしかば驛長は事實取調の上本人は不取敢門司署に引渡しをなしたるが幸に驛夫の負傷は指先のみ極めて輕微なりしとは危險千万

地獄から追返され男

▽狂言か氣狂ひか

仁川牛角洞にて轢死を企てたるも果さず行衛不明となりたるものありとの事は昨紙所報の通なるが其筋にては嚴重に搜査したる結果右は仁川郵便局の電話工夫長沼七五郎（二七）と云へる者にて兼て其の實兄なる金次郎より廿圓の負債あり屢々同勸せる仁川局内にて催促されるを苦にしたる結果精神に異狀を起し二日程局に缺勤の上遺書を殘して來し一層の事死ぬるに如かずと不了見を起し十日の夜終列車の京城より來るを待ちて線路に俯向に寢ね居たるが其より後は蘆張り覺へず翌十一日の朝眼が醒めて見れば後頭部に少しく負傷し居るのみにて死んだとばかり思ふた自分の命があるに不思議の念を抱き未だ死ぬるのは早いとて地獄の鬼に見離されたのに相違ないと蟲のよい獨言を云つて友人なる京町一丁目の中川某方に至りて應急の手當をなしつ〻あるものと判り其筋よりれ目玉頂戴したりとは近頃滑稽の事共なり

宮内府内の小火

▽危ない所を消止む

十二日午前十一時昌德宮内宮内府新築廳舍の湯沸所煙突より發火し柱を焦し板壁に移り今や大事に至らんとする所を小使の發見する處となり直に輕便消火器を以て消し止め尚は宮内府消防組は發火場所の附近を仔細に點檢したり

●西本願寺韓人教會 は去る三十九年來京城長谷川町本願寺にて組織し會員七千數百名に達し麻浦、高陽、利川、驪州、安養、各地に分會を有し多少熱心なる信徒を得先般の臨時傳道には韓人信徒（傳道助手として教育中の者）二十餘名を參加せしめて大道講演をなせし次第にて漸次發展の傾向あり今回更に平壤、定州、宣川、統營、光州、龍山の各地に分會增設の手續中にて該教會本部を西署管内の洞元經理院跡に移轉し根底ある韓人布教の一歩を進むる方針にて是れと同時に京都佛教大學卒業生中の秀才を撰拔し各道の名刹並に京城に留學せしめ專ら韓語の研究をなさしむる目的にて菊川慈祥、藤原教海、桑原貫一等の諸氏は先發として既に渡韓せしが尚ほ續々增員し一面には同派大聖教會にて教育中なる學生四十餘名を基礎として簡易なる佛教中學校を設立し韓國僧侶の子弟をも審査の上收容する筈にて龍山なる開教總監部にては着々其準備中なりと

●太え野郎の處刑 滋賀縣愛知郡豐倉村大字清水三十四番戸當時京城驛前居住大工職松村留吉（三二）が昨年十二月二十七日頃京城本町二丁目八木喜一なる者と同居中八木の不在に乘じ銘仙袷一枚外四點（代二十圓五十錢）を窃取したるを手初めとし外數ヶ所に忍入り金品を窃取し或は知人の品物を借り横領費消し若しくは金錢を詐取せる中にも殊に明治町二丁目八十九番戸大濱佐太郎方にて金品其他を窃取若しくは横領し行衛を晦し何の罪なき南大門通り精米商樋口長次郎に濡衣を着せ前記の箇所に潛伏し居りたるを逮捕せられ京城地方裁判所に於て懲役三ヶ年に處せられ不服控訴中の所昨十二日京城控訴院に於て楠裁判長草場檢事の係りにて控訴棄却せられたり

●車と車との衝突 銅峴管内人力車夫李春三が客を乘せ一昨十一日午後二時頃黄金町通り十八銀行前を通過し西洞に入らんとする際永樂町和田雜貨店番頭前田力次（二〇）が永樂町方面より全速力を以て進行し來り該人力車と衝突し爲に車は轉覆し乘客は一間許り先きに飛び下り車賃も支拂はず行き過ぎたる後にて車夫と前田とは互に喧嘩を初め車夫は車體破壞し前田は自轉車の前輪を破損したることとて銅峴分署に訴へ出たるも結局前田が不注意の爲め衝突したれば損害金を出す事になり事濟み

●糞を擲き付ける 本町一丁目紙商北内淺吉方雇女山口縣八田村みな（一八）は壽町一丁目五十五番戸金澤方止宿電氣會社雇渡邊保（二〇）が十二日午前七時五十五分頃出勤の途次同家前街路を通り蒐りたる際二階より小兒の糞便の新聞紙に包みありたるを投棄せしに渡邊の肩に當り洋服を汚したりとて渡邊より南部署に訴出しに付取調しに知らずして投棄せし旨申立てたるが警察處罰令違犯として告發せられ目下司法係りにて取調中なりと

●韓人市場の盛況 仁川栗木洞に開設したる韓人市場は豫想外の盛況を呈し現に一昨日の如き市場の參集者二千人以上を數へ餘興として韓人角力の取組等ありて空前の殷盛を極めしかば仁川署より警官數名出張して警戒したるが賭博の制止十五件に及びたるのみなりしと

●母國内の流行病 日本に於ける本年一月より八月五日に至る流行病統計を見るに赤痢一、七七七にして昨年に比し六二五多く腸チプス一〇、三九七にして昨年に比し四、二六二多し而して赤痢は熊本一七二を腸チプスは東京の二、八九五を最も多しとす

目と耳

▲壽座 合同劇十三日の代り狂言は（第一番目）新派軍事探偵（十場）（第二番目）喜劇奇妙な亭主（三場）本雨立廻り御覽に入候

▲浪花館 廣八一座十三日の代番組は左の如くなるが木戸場代共廿錢均一 御祝儀の入船（入登）忠臣藏三段目（廣吉）伊賀越二ッ目圓覺寺の段（越濱）忠臣藏八ッ目本藏下屋敷の段（此重）梅の由兵衛聚樂町の段（此千代）本朝廿四孝四ッ目（仙春）れ駒才三鈴ヶ森の段（竹本隅照）八陣正清本城の段（越春）先代萩御殿場（廣八）忠臣藏七ッ目（掛合）

今日の運勢

●八月十三日舊七月八日二黑友引庚戌滿 △一白●情義に驅られて累を招く勿れ●新事旅行見合すべし △二黑●諸事手控かへの事●遺失及保證受印世話事を戒しむ △三碧●起工開店及金屬の事に吉其他不快の日諸事控へ目の事 △四綠●取引貸借賣買保證故障多し新事旅行見合せの事 △五黃●婚談共同團體の事に吉其他平凡 △六白●快欣の日なり大凡吉雇入れ飼畜婚談に忌む △七赤●衛生に留意すべし △八白●旅行移轉轉業改革整理に吉家族の事煩累あり △九紫●會見談議請願旅行起工開店に吉婚談共同團結に凶（三二館判）

京城居留民團公文

京城居留民團告示第三十二號

本年七月五日龍山居留民團ヲ京城居留民團ニ合併シタルニ付本年度當民團歳入出豫算追加ノ件左記ノ通居留民會ノ議決ヲ經理事官ノ認可ヲ得タリ

明治四十三年八月十一日 京城居留民團民長 古城菅堂

記

明治四十三年度京城居留民團歳入出追加豫算

歳入

一	金五萬〇五百六十九圓	經常部追加豫算高
一	金一千圓	臨時部追加豫算高
合計	金五万一千五百六十九圓	

歳出

一	金四萬二千六百七十七圓	經常部追加豫算高
一	金八千八百九十二圓	臨時部追加豫算高
合計	金五萬一千五百六十九圓	

明治四十三年度京城居留民團歳入出追加豫算表

歳入 經常部

款項	科目	金額
第一款	居留民團稅	金三万九千二百七十一圓
第一項	戶別稅	金二万〇七百四十八圓
第二項	土地稅	金五千四百三十圓
第三項	建物稅	金四千百〇三圓
第四項	營業稅	金五千五百九十五圓
第五項	汚物掃除割	金六千五百二十五圓
第六項	雜種稅	金六千八百七十圓
第二款	使用料及手數料	金四千百八十五圓
第一項	使用料	金三千五百五十七圓
第二項	手數料	金六百二十八圓
第三款	財産收入	金百六十二圓
第一項	不動産收入	金六十三圓
第二項	動産收入	金九十九圓
第四款	雜收入	金六千九百五十一圓
第一項	物品賣拂代	金二十圓
第二項	過年度收入	金三千四百四十六圓
第三項	豫知ス可ラザル收入	金七十五圓
第四項	地所家屋轉貸收入	金三千〇九十三圓
第五項	賠償及辨償金	金三百十七圓

歳入 臨時部

款項	科目	金額
第二款	寄附金	一千圓
合計		金五萬一千五百六十九圓

歳出 經常部

款項	科目	金額
第一款	役所費	金八千八百三十三圓
第一項	俸給	金二千二百五十一圓
第二項	雜給	金四千六百四十一圓
第三項	需用費	金一千八百九十五圓
第五項	修繕費	金四十七圓
第二款	會議費	金六百九十九圓
第一項	雜給	金五百九十六圓
第二項	需用費	金一百〇三圓
第四款	土木費	金二千六百二十八圓
第一項	道路橋梁費	金一千九百七十三圓
第二項	溝渠費	金二百九十一圓
第三項	雜給	金三百六十四圓
第五款	教育費	金一萬三千八百十五圓
第一項	小學校費	金一萬二千八百十五圓
第六款	衛生費	金七千四百七十二圓
第三項	驅黴院費	金一千二百十三圓
第五項	傳染病豫防費	金三百四十五圓
第六項	汚物掃除費	金五千九百十四圓
第七款	救助費	金二百四十七圓
第一項	救助費	金二百四十七圓
第八款	警備費	金一千百八十七圓
第一項	消防費	金一千百八十七圓
第十一款	借地料	金一千九百八十五圓
第一項	借地料	金一千九百八十五圓
第十二款	基本財産編入金	金一千百四十二圓
第一項	基本財産編入金	金一千百四十二圓
第十三款	接待費	金一百圓
第一項	接待費	金一百圓
第十四款	雜支出	金一百二十八圓
第二項	拂戻金	金四圓
第四項	滯納處分費	金四圓
第五項	借入金利子	金一百二十圓
第十五款	豫備費	金五千四百四十一圓
第一項	豫備費	金五千四百四十一圓
小計		金四萬二千六百七十七圓

歳出 臨時部

款項	科目	金額
第三款	居留民團債費	金四千三百〇三圓
第一項	居留民團債費	金四千三百〇三圓
第四款	教育費	金二百十一圓
第一項	小學校費	金二百十一圓
第六款	警備費	金百二十圓
第一項	消防費	金百二十圓
第十款	充用金	金五百三十五圓
第一項	前年度充用金	金五百三十五圓
第十一款	一時借入金	金三千七百廿三圓
第一項	一時借入金	金三千七百廿三圓
小計		金八千八百九十二圓
合計		金五萬一千五百六十九圓

京城居留民團告示第三十三號

明治四十三年七月五日龍山居留民團ヲ京城居留民團ニ合併ニ依リ龍山居留民團立龍山尋常高等小學校ハ京城居留民團立龍山尋常高等小學校ト改稱ス

明治四十三年八月十一日 京城居留民團民長 古城菅堂

●天氣豫報（自十二日午後六時至十三日午後六時）

北東風晴

十二日（華氏） 最高温度 八八、七 最低温度 七六、一

제481호 1910. 8. 13.

入院隨意
京城壽町三丁目(電話三七八番)
中島醫院
院主醫學得業士 中島貞信

滋養 強壯
高等牛乳
韓國畜産株式會社
南大門外 電話八八番

馬車配達
●●●滋養と牛乳●●●
●●●衛生と消毒●●●
純良 牛乳
京城東四軒町 岡野牧塲
電話壹六〇九番

夏の和樂園
御料理 席貸 高田家
電九三七
不相變御引立之程乞

京城曙町(電話一一八七番)
統監府御用
宮内府御用
軸物 表装
金 銀
額 屏風

眼科
日曜及祭日は午後二時迄
京城本町一丁目憲兵分遣所前
江頭眼科醫院 (電話三十三番)
前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄

鎮南浦西三丁目
釘本鎭南浦支店
電話六三番

和洋金物商
韓國京城本町五丁目
釘本藤次郎本店
長電話四五番 振替貯金口座韓國(二五六) 電信略ク號

京城南大門外蓮莱町
釘本鐵工所
電話二三四番

きゝめのある 温泉湯
此の温泉は左の如き病に最も妙なり
一かつけ、痔疾、リウマチス、腰痛、中風、ひぜん、梅毒、りん病、よこね、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、せんき、臚胃加答兒、凍傷、がんがさ、其他内用には鐵冷温泉を併用すれば尤も効能あり
京城本町一丁目郵便局前
貸席 鐵冷温泉
電話千四百十一番

味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
特約販賣 自製
ビール 新茶 大賣出し
大上商店
(電話二五一番)

印章彫刻
ゴム印彫刻
京城本町四丁目
赤帽子號印舖
電話九三番
諸官衙御用達
奥野岩太郎

無比強
かや わた
關戸蚊帳株式會社韓國代理店
吳服 太物
京城明治町一丁目
洋反 蒲團 調進
唐川商店
電話二六一番
特許 新案製綿韓國一手特約店

明治廿年七月創立
資本金一千萬圓
東京火災海上運送保險株式會社
京城代辦店 本町四 山口吳服店 電話九番
事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

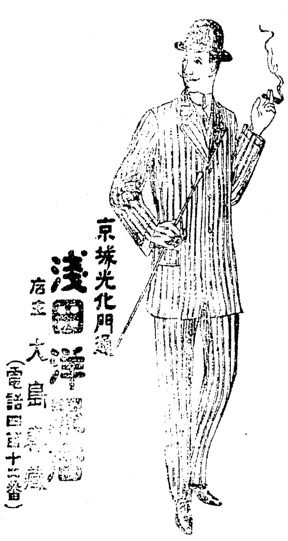
京城相生町南門湯横 (電話一二九四番)
自午前八時至午後九時
●花柳病專門 附痔疾一般
●入院隨意
京城梅毒病院
院長 醫學得業士 蘆田耕平

貨物運送取扱
關稅貨物取扱
危險擔保附運送品
代金付貨物運送
貨物引換證發行
内國通運株式會社
京城南大門驛前 京城支店 電話一七〇八番 一七〇九番
仁川驛前 仁川出張所 電話五一二番
草梁驛前 釜山出張所 釜山驛前電話六二六番 草梁驛前電話五三七番
龍山驛構内 龍山出張所 電話二〇六番

統監府及諸官衙御用
荷物運搬
引越荷物受負
伊藤組
本町三 南大門驛前 大和町二 第二
電話四〇番 電話七三二番 電話九四八番 電話一六〇八番 同

諸官衙御用
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類
委託販賣
東京ランバーゾ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
大阪鹽業合資會社食鹽特約
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目 (電話二三〇番)
出張所 東京十番地電新橋 南鍋町一丁目 二九六三

旅館
京城南山町三丁目
京城ホテル
電話長一二三番 四九二番
日本室和食
特等 (壹圓五十錢)
一等 (壹圓二十錢)
二等 (壹圓)
三等 (壹圓五十錢)



京城光化門通
淺田洋服店
店主 大島善藏
(電話四百十二番)

明治六年設立
資本金 一千萬圓
積立金 五百七十五萬圓
株式會社第一銀行京城支店
京城南山三丁目
電話 一一番 六二一番
振替貯金口座韓國一一番
銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候

諸紙 諸官衙御用
印刷と紙
和洋帳簿 印刷 各種製本
京城本町六丁目
播本(ハリモト)商店
電話百拾番

本店開業拾五ヶ年
弊堂開業後満十五年今日の隆盛は全く各位御愛顧の賜ものに外ならずと確信仕候に就ては此際
祝意を表すると共に平素の御愛顧に酬ひんが爲め且つ一層販路擴張の目的にて
「タバン懷中時計三千個及び「アンソニヤ」掛置時計三百個」を限り四月一日より九月三十日迄本社の命に依り何方樣へも卸直段にて販賣することゝ相成候つて各位の御便利を計り左記特約店を設置致候間最寄りの店にて續々御購求の程願上度此段廣告候也 敬白
瑞西タバン懷中時計會社韓國代理店
米國ウオルサム時計韓國特約販賣店
米國アンソニヤ掛時計韓國特約販賣店
携帶電燈各種特約販賣店
仁川本町三丁目(電話七〇五番)
時計卸商 喜多金光堂本店
京城本町二丁目(電話一〇一五番)
時計卸小賣 喜多金光堂支店
京城本町一丁目憲兵分遣所前(電話一三八番)
右特約店 金化堂時計舖
各地方より御注文は發送實費申受候

南大門通三丁目光宣門側
御待合 紅葉
電話一三八二番

當銀行は韓國中央金庫並に日本金庫事務の外預金貸金爲替等普通銀行の業務を精々確實親切に取扱申候
支店出張所
仁川、平壤、元山、大邱、鎭南浦、木浦、釜山、群山、馬山、城津、羅南、安東縣、新義州
爲替取引先
日本 東京、京都、大阪、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、東京新大阪町、大阪西區、松山、廣島、長崎
韓國 公州、光州、晋州、全州、開城、海州、沙利院、博川、寧邊、義州、咸興
清國 大連、遼陽、旅順口、奉天、鐵嶺、長春、牛莊、天津、北京、漢口、上海
其他外國 香港、桑港、紐育、龍動、巴里、里昂
韓國銀行

★株式會社百三十銀行京城支店
電話五十八番
振替貯金韓國一一三番
資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
爲替取組先
畿内 大阪、神戸、兵庫、堺、伏見、郡山、奈良、八木、田原本、高田、貝塚、岸和田、下市、茨木、平野、住吉、御影
東海道 東京、横濱、大磯、静岡、甲府、津、岡崎、濱松、宇田、桑名、名古屋、熱田、四日市、山田、松阪、千葉
東山道 彦根、大津、八幡、長濱、多治見、大垣、岐阜、中津、宇都宮、高崎、伊勢崎、前橋、若松、福島、酒田、能代、土崎、青森、仙台
北陸道 小濱、敦賀、福井、鯖江、大聖寺、金澤、高岡、富山、伏木、新潟
山陰道 宮津、舞鶴、新舞鶴、豊岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田
山陽道 姫路、龍野、網干、岩見、西大寺、岡山、味野、牛窓、玉島、笠岡、福山、倉敷、高梁、尾の道、小郡、岩國、柳井、三原、廣島、呉、府中、平生、防府、山口、徳山、萩、長府、小月、下之關
南海道 和歌山、田邊、御坊、新宮、尾鷲、串本、高松、坂田、豊濱、川之石、今治、西條、松山、三津ヶ濱、州本、八幡濱、宇和島、高知、徳島、撫養
西海道 門司、福岡、博多、直方、飯塚、佐伯、大分、別府、臼杵、長洲、長崎、佐世保、唐津、佐賀、若津、牛津、伊萬里、久留米、熊本、鹿兒島、坪井、宮崎
北海道 小樽、函館
臺灣 臺北、臺南
樺太 太泊
韓國 仁川、釜山、平壤、鎭南浦、元山、群山、木浦、羅州、晋州、馬山、大邱
銀行一般の業務精々便利取扱可申候

一鴨綠江松材現木
長さ八尺五寸以上二間半
一尺五寸角以上二尺迄
右木材多數所有致し居候に付特別安價に賣却仕候間御望の方は御來談被下度願上候
京城旭町三丁目(電話五六八番)
建築業 柴田芝之六
表具部開業
襖額屏風天井壁張及表裝一切並書畵の需用に應ず
旭町三丁目三日月湯隣
柴田表具部
主任 納島久雄
眞光小太郎
(電話五六八)

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 九拾六萬圓
京城南大門通
株式會社十八銀行京城支店
(電話四二〇)

本店 長崎市築町
支店出張所
京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羣山、馬山
大阪、熊本、佐世保、厳原、五島、壹岐
日本韓國
其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候 (利息日歩壹錢二厘)
長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)